

鹿大広報

No.149

Feb/1999

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集：未来への道

特集



若松 愛子

■卒業にあたって

6年間という長い大学生活もいよいよ終わろうとしています。振り返ってみると、押し寄せる試験と厳しい実習に追われ、常に全力疾走を続けた、あっという間の6年でした。

少しずつ専門分野について学んでいくにつれ、もっと勉強したい事、やりたい事が増え、将来の夢は膨らんで行くのに、いざ就職という局面に立たされると夢と現実の間で自分の未熟さを痛感し、不安や焦りを感じました。

そんな中で自分が進むべき道を選択する助けとなったのが多くの先生、先輩方の暖かい御指導であり、友人達の励ましでした。この大学で友人達と共に支え合い、多くの楽しい時を過ごせたからこそ、私の大学生活はこれほど有意義であったのだと、この出会いに感謝しています。

これからも、このように素晴らしい出会いを期待しつつ、次なる目標に向かって新たな一歩を踏み出したいと思います。

(歯学部歯学科6年 若松 愛子)



廣森 健二

■「一後・一得 (いちごいちえ)」

修了は、新たな始業の一通過点であると思いますが、スムーズに達成できることもあれば、「紆余曲折」の末「やっと・・・」と言うこともありました。ふと振り返ると、入学から修了までの間、多くの人々に、助け・支えられたことを痛感します。入学したての頃「右往左往」していた私に講座の先生方は、物事に対する柔軟な考え方と、あるいは、一つの事に「堅忍不拔」の姿勢で臨むことも教授して戴きました。実験のイロハから始まり、一つの実験を遂行した後（一後）、結果を論文で出す機会を得ること（一得）が出来ました。何事に対してでも、取り組み方が「一心不乱」で真摯であれば、善し悪しに関わらず一つは結果が出るということを実感しました。これから私は新たな一歩を踏み出します。たとえ徒労に終わっても、人との「一期一会」を大切にし、自分への「一後・一得」が出来る様に、肩の力を抜きつつ、「臨機応変」に頑張っていきたいと思っています。

(歯学研究学科4年 廣森 健二)



中田 舞子

■卒業にあたって

振り返ってみると私にとって大学生活、特に4年のときの1年間は、大げさかもしれませんが、今までの人生において最もつらく、しかし充実していたときでした。

3年の2月末に、できたらラッキーと思っていた他大学の大学院進学が具体的に挑戦できることを知ったのです。そして、その後の地獄のような半年間の始まりでもありました。手渡された問題は、難しいというより未知の世界でした。それを1つ1つ質問したり、調べたりして自分のものにしていきましたが、あまりにも難しく、自分の処理能力をはがゆく思い、この道を選んだ自分を呪う毎日でした。それでも合格を手にすることができたのも、気持ちが下がらないように励ましてくれた家族、友人、先生方そして研究室の方々のおかげだと本当に感謝しています。

4月からは一人暮らしが始まります。大学生活で痛感した努力や人との出会いを大切に、これからはがんばっていきたいです。

(工学部機械工学科4年 中田 舞子)



上田 和成

■修了にあたって

大学院に入学して2年、大学入学から数えると6年が過ぎようとしている。小・中学生の頃には大学に行くなんて思いもしていなかった私が大学院まで進学したことには、我ながら驚きである。

私が大学に入学した当初は、機械工学に対して機械工学＝エンジンといった程度の認識しかなく、ましてや私の所属する研究室で取り扱う流体工学など知る由もなかった。ところが、この6年間で機械工学のさまざまな講義を聴講し、その幅広さを目の当たりにすることで私の認識は大きく変化し、現在では以前にも増してかなり魅力的なものとなっている。たった一つ分野ではあるが、機械工学の奥深さ、難しさを知り得ただけでも私にとっていい経験であったと考える。

最後に、この学生生活において自分がどれだけ成長できたかは分からないが、これまでに得た僅かばかりの知識や経験が社会に出て少しでも役立つよう頑張っていきたい。

(理工学研究科2年 上田 和成)

特集



吉 村 望



平 明

■退官所感

昭和41年6月から32年余、鹿児島大学に在籍しました。この間、麻酔学講座の新設、医学部及び附属病院の現在地への移転、救急・集中治療棟の新営等々、私共にとって身近なハード部門の変容を目の当たりにしてきました。同時に、日進月歩の医学、医療の進歩に伴う麻酔・蘇生、集中治療医学の発展というソフトの面での素晴らしい躍進の時期を過ごせた事を幸せに感じています。とくに、私の任期中に第45回日本麻酔学会学術集会・総会を鹿児島の地で盛会裡に開催できた事は、教室員の献身的な努力に大きく負う所であります。また、附属病院長として地域に高度の医療を提供し、社会のニーズに合った臨床教育、及び研究にいささか寄与できた事を大変誇りに思っています。皆さんの努力によって、21世紀へ向けた本学のさらなる発展を心より祈念します。長い間、良き先輩、同僚、後輩に恵まれ、充実感をもって過ごせた事を心より感謝致します。

(医学部教授 吉村 望)

■停年という事

停年とは年を時をとめるということであり、職を退くにあたり、もう働かなくてよい、と明言されているのがよい。国立機関では退官といい、私立大学では退職という。叙勲までは位階はないので統一してもよいと思う。

60歳代は昔は本当に高齢者に見えた。今は外見は昔よりも若く見えるが、身体的に完全な若者ではない。70歳代になれば各臓器癌が発症する確率は極めて高い。人生50年では癌の発症は極めて稀であったが、60歳以降は各疾患も増加する。ゆっくり骨休めしなさいという有難い思召しが停年であろう。大学の教授ですべての事をやり遂げて悠々自適という方も少いであろう。積み残しは後輩に有益なものだけとし、負担は掛けたくない。国際的なことは止むを得ないであろう。ニューヨーク市立大学の某教授は90歳で小規模の国際会議の理事長であり、コーネル大の病理学のスチュワート教授は退官後悠々自適の生活をしておられた。どちらの生活を選ぶべきか？

(医学部教授 大井 好忠)



大 井 好 忠



末 田 武

■定年退官を迎えるにあたって

光陰矢の如しというがまさにその通りである。

臨床医学は個人の死生観そのものに関連する。臨床医学の評価は左右にゆれ動き乍ら行先を模索して来た。私も折にふれ「功罪相半ばす」と思いつつ馬齢を重ねて来た。問題は我々医療、医学に従事する者がどの様な方向で認識を深めて今後複雑な世の中に受け入れられていくべきなのか。自問自答せねばならないことになる。医学教育、医師の養成、研究診療の進歩どれをとってみてもその時々、社会の要請を無視出来ない。或人は先進し、或人は遅れをとりそれぞれがその時代に適合するか否かでも評価は別れる。大学といえども臨床医は社会性を常に考慮せねばならない。医師のおかれる立場、教育のあり方、研究の方向いずれもむづかしい。多くの人々に支えられて何十年という年月を過ごすことが出来た事を改めて果報に思い、皆様にお礼を述べてキャンパスを去りたい。

(医学部教授 平 明)

■退官に当って

昭和55年の春、鹿児島大学に着任してから19年が経過してしまいました。この間を振り返って見ますと色々なことがありました。着任したのは歯学部が開設されて2年半経過した時であり、歯学部および附属病院の建物が完成した時でした。着任してみると部屋があるのみであり、椅子や机もなく、数日間は立ったままで過ごしたのも、今から思えばよい思い出であります。病院も大きな機材は設置されていましたが、治療用の器具はなく、リストアップから始め、やっと器具を揃えることが出来、どうにか診療科を開設することが出来ました。産みの楽しみと苦しみとを体験することができました。この19年間における科学や治療技術の進歩は大きく、そのスピードも益々早くなっているのではないかと思います。次世紀に向けてこの進歩に対応し、頑張っていたきたいと思えます。在職中お世話になりました皆様に感謝し、鹿児島大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

(歯学部教授 末田 武)

しまだ かずゆき
島田 和幸 (歯学部教授口腔解剖学Ⅱ講座)
歯学博士、博士(医学)



(生) 昭和24年1月3日
(学) 日本大学大学院歯学研究科博士課程
(前) 昭和大学医学部助教授
(担) 解剖学(肉眼解剖)、歯の解剖学

肉眼解剖を通じて人体構造のすばらしさの認識と医療人としての人間形成の場になるような教育、肉眼解剖学の後継者の育成を行いたい。

ほんま としお
本間 俊雄 (工学部助教授建築学科)
工学博士



(生) 昭和30年8月5日
(学) 日本大学大学院理工学研究科(博士課程)海洋建築工学専攻修了
(前) 株式会社フジタ技術研究所主任研究員
(担) 応用数学、建築構造シミュレーション

生活圏を関東から九州に、所属を民間企業から大学へと激変。しかし、計算力学と建築を橋渡しする研究・教育には変わらず邁進します。

よしもと みのもる
吉本 稔 (工学部助教授生体工学科)
博士(理学)



(生) 昭和39年6月14日
(学) 名古屋大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了
(前) 工業技術院物質工学工業技術研究所研究員
(担) 生物電気化学、生体情報システム論Ⅰ、Ⅱ 複雑系情報システム特論

鹿児島大学の環境に慣れてきたところです。生体工学の先生方と特色ある研究を展開していきたいと考えています。

やまもと まさし
山本 雅史 (農学部助教授生物生産学科)
博士(農学)



(生) 昭和39年1月27日
(学) 京都府立大学農学部農学科
(前) 農林水産省果樹試験場育種部主任研究官
(担) 園芸環境論、農場実習、果樹園芸学特論

暖地である鹿児島の特徴をいかした農業研究及び教育を進めたいと考えています。

バスケス アーチディル ミゲル フェデリコ
VAZQUEZ ARCHDALE MIGUEL FEDERICO
修士(水産学)(水産学部講師漁業基礎工学講座)



(生) 昭和37年9月29日
(学) 鹿児島大学大学院水産学研究科修士課程
(前) ディスカス・ランゲージ・スクール講師
(担) 漁業基礎工学講座

留学生との交流を通して、日本の国際化に貢献できるよう努力していきたい。また、自分の水産学についての研究も深めていきたい。

